

熊本大学国際化推進センターニュース

The News Letter of the Center for Globalization, Kumamoto University

熊本大学サマープログラム 2014を開催



阿蘇実地見学旅行

熊本大学は、7月29日から8月8日まで「熊本大学サマープログラム2014」を開催しました。

「熊本大学サマープログラム」は本学が平成19年度から実施しており、8回目となる今回は、中国、韓国及び台湾の交流協定校から40人の留学生が参加しました。

本プログラムは、外国人学生に日本に対する興味や理解を深める機会を提供する目的で実施しているもので、日本語学習はもちろんのこと、和菓子製作、浴衣体験などの日本文化体験、熊本城・旧細川刑部邸など熊本の歴史・文化遺産等に関する学外講義及び阿蘇への見学旅行など、多彩な内容で日本そして熊本の魅力を体験できる内容になっています。

8月2日には、ホームビジット（日本の家庭訪問）を行い、参加学生は、家族の一員としてホスト

ファミリーに温かく迎えられ、日本の家庭での普段の暮らしを体験しました。

本プログラムでは、本学学生ボランティアサポーターが様々な活動を支えており、参加学生にとって、心強い存在です。一方、ボランティアサポーターにとっても、本プログラムへの参加は、貴重な国際交流経験となっています。2週間という短い期間の中でも、ボランティアサポーターと留学生は非常に強い絆を結び、本プログラムは、未来につながる国際交流のきっかけの一つとなっています。

参加学生は、最終日のグループ発表会で、日本語クラスのプロジェクトワークでまとめた本学学生へのインタビュー結果を発表し、修了式で谷口学長から修了証書を受け取りました。そして翌日、名残惜しそうに帰国の途に就きました。



浴衣・茶道体験の様子

駐日ブルキナファソ特命全権大使が谷口学長を表敬訪問

7月12日、フランソワ・ウビダ駐日ブルキナファソ（アフリカ）特命全権大使が本学を来訪しました。

ウビダ大使は、熊本県ユニセフ協会主催の「第22回アフリカの子どもの日 in Kumamoto」出席のため来熊し、同協会会長を務めている谷口学長を表敬しました。懇談では、本学とブルキナファソの交流を継続して発展させていくことの確認が行われました。

また、当日は、全国から集まった約80人のブルキナファソを含むアフリカからの留学生等へ学長講話が行われ、参加者は本学及び熊本への関心を深めていました。「アフリカの子どもの日」のイベントは毎年開催されており、今後もアフリカ地域と本学の交流が拡大することが期待されます。



谷口学長、フランソワ・ウビダ大使(左から5人目)と記念撮影を行うアフリカの学生

コーネル大学Pinch教授が本学を訪問

米国・コーネル大学のTrevor J. Pinch教授が7月3日に谷口学長、両角光男副学長を表敬訪問しました。コーネル大学は、1865年創立の名門私立大学であり、アイビーリーグの一角で、総合的な教育を提供する総合大学です。



Pinch教授(左)と谷口学長(右)

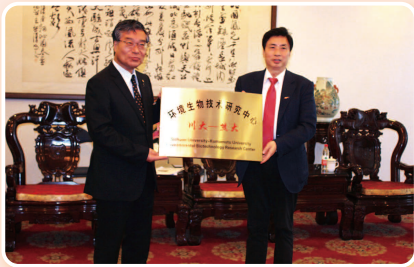
Pinch教授は、STS (Science & Technology Studies) の開発者で、現在は同大学院のSTS専攻長を務めています。

表敬訪問では、谷口学長による熊本大学の紹介や、Pinch教授による米国におけるSTSの説明が行われ、表敬は和やかに終了しました。また、「文理融合教育を考えるー米国コーネル大学STSの歩みー」と題した特別講演が学内で開催され、学長・理事以下40人の教職員が出席して、活発な質疑応答が交わされました。

四川大学(中国)における熊大—川大環境生物技術研究センター オープニングセレモニーに出席

5月12日、谷口学長をはじめとする本学の訪問団が中国の四川大学を訪問し、熊大—川大環境生物技術研究センターオープニングセレモニーに出席しました。同センターは、本学と四川大学の共同ラボで、平成23年度に設置の覚書を交わし、平成24年度にセンターの建物が竣工しました。本学と四川大学は、平成9年に部局間交流協定を締結(平成21年に大学間交流協定に拡大)して以来、学術交流及び学生交流を活発に展開してきました。

式典では、谷口学長、謝和平学長から、各大学の概要とこれまでの相互の協力関係に係る紹介等があり、和やかに式典は終了しました。今回の訪問により、同センターの発展を含め、今後さらに両大学間の交流を深めていくことで合意しました。



熊大—川大環境生物技術研究センターの設立記念プレートを掲げる谷口学長(写真左)と謝学長(写真右)

南開大学における大学間学術交流協定調印式及び 南開大学医学部第19回卒業式に出席



谷口学長(写真左)と龔学長(写真右)

6月28日、谷口学長をはじめとする本学の訪問団が中国・天津市の南開大学を訪問し、大学間学術交流協定(更新)調印式及び南開大学医学部第19回卒業式に出席しました。南開大学は、中国で最も長い歴史を誇る大学の一つで、本

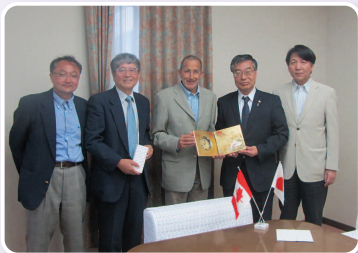
学と南開大学は、平成21年度に大学間交流協定を締結して以来、学術交流を活発に展開してきました。

式典では、谷口学長、龔克学長から、両大学の概要及び研究分野の紹介後、大学間学術交流協定の調印が行われました。同日午後には、谷口学長が南開大学医学部第19回卒業式において来賓祝辞を行いました。今回の訪問を機に、今後さらに両大学間の交流が深まることが期待されます。

アルバータ大学Shah教授が本学を訪問

本学の交流協定校であるカナダ・アルバータ大学のSirish L. Shah教授が5月26日に谷口学長、伊原博隆副学長(国際交流担当)を表敬訪問しました。

本学は、同大学との間で平成13年度に学術交流協定を締結して以来、研究員や教員の招聘・派遣、アルバータ大学への海外語学セミナー及びサマープログラムで交流を深めてきました。今回の訪問では、海外語学セミナー及びサマープログラム参加者の状況や今後の交流促進について意見を交換し、今後とも両大学の良好な関係を発展させることで意見が一致しました。



水本郁朗准教授、岩井善太名誉教授、Shah教授、谷口学長、伊原副学長

トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム採用者を 谷口学長が激励

7月25日、「平成26年度官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム～」採用者と谷口学長の懇談会を開催しました。

本制度は、海外での「異文化体験」や「実践」を焦点にした留学を推奨することにより、多彩な経験と自ら考え行動できる体験の機会を提供する目的で文部科学省が日本学生支援機構及び民間企業との協働で創設したものです。初の実施となる今年度には、全国から323人(申請者1,700人)が採用され、うち本学からは8人が採用されました。

当日は、採用者に対して、谷口学長から「留学先では多くの友人を作り、勉学に励むと同時に楽しんで欲しい。留学中の人的ネットワークが世界とのつながりとなり、日本の国際的影響力の拡大につながる。」との激励の言葉が贈られました。

採用者は、アメリカやイギリス等の欧米諸国から、インド、シンガポールなどアジア諸国にいたるまで様々な留学先で多彩な経験をすることが期待されます。



谷口学長と「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」参加者

グリフィス大学(オーストラリア)が来学

7月9日、グリフィス大学から、Dr. Jeanne McConachieに引率された学生ら14人が、熊本大学を訪問しました。

同大学は、オーストラリア・クイーンズランド州にある総学生数24,000人の公立大学で、本学工学部及び大学院自然科学研究科と平成24年に部局間交流協定を締結しています。

今回、訪問団は、オーストラリア政府が留学施策として進めるプログラム「新コロナ計画」により来日したものです。一行は、6月30日から7月8日まで、平家の落人伝説でも知られる熊本県八代市五家荘で同地域のドキュメンタリー映画を撮影し、7月9日、熊本大学工学部百周年記念館で、映画上映会及びグリフィス大学の紹介を行いました。

これに対して、本学は、日本文化特別授業「武士と日本刀～斬試の実演～」と題し、国際化推進センターのマスデン眞理子講師の通訳の



日本刀による斬試

下、古武道小岱流斬試源清会の松永源六郎氏による日本刀の構造と製作の解説及び真剣を使った斬試(巻藁、畳等を実際に刀で斬ること)等を行いました。グリフィス大学の学生からは、「日本刀の美しさと威力が伝わってきて感動した。」などの声がか

れました。

今回の上映会及び特別授業には、谷口学長をはじめ、日本人学生及び留学生など約90人が参加し、交流を行いました。



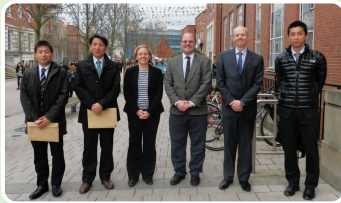
グリフィス大学一行と熊本大学学生・教職員

英国リーズ大学、JSPS Londonを表敬訪問

3月17日、英国・リーズ大学を伊原副学長（国際交流担当）等が表敬訪問しました。リーズ大学は、英国北部の工業地帯の中心地に所在し、1904年に設立された英国でも有数の大学で、言語学・言語教育、哲学、法学、医学、電気・電子工学、アジア研究等の各分野で高い評価を得ています。本学は、平成18年に学生交流協定を締結して以来、毎年、双方向型の学生派遣・受入を行ってきました。

今回の訪問では、同大学の国際交流オフィス、日本語学科を訪問し、関係者と相互の学生派遣・受入、サマープログラム等の意見交換を行い、日本への留学を希望する学生向けに、本学の紹介を行いました。

翌日の3月18日には、日本学術振興会ロンドン研究連絡センター（JSPS London）を訪問し、英国の学術研究及び高等教育に関する最新の動向について、意見交換を行いました。



リーズ大学国際関係教職員等と

熊本留学生交流推進会議総会を開催

6月6日、熊本大学において、熊本留学生交流推進会議総会を開催しました。同会議は熊本県内の高等教育機関、国・地方公共団体、経済団体、国際交流団体を構成員とし、留学生の円滑な受入及び地域交流を通じた相互理解等を目的として活動を続けています。

総会に先立ち、文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室室長補佐（官民協働海外留学創出プロジェクトチーム）佐藤稔晃氏から、外国人留学生受入れ、日本人学生海外派遣状況及び文部科学省の施策等の説明が行われました。

総会では、平成25年度事業の報告及び平成26年度事業等について協議を行いました。今後の留学生受入の促進やグローバルな社会で活躍できる人材育成について活発な意見交換が行われました。



総会の様子

平成26年度前期熊本大学国際化推進センター 日本語研修コース及び熊本大学短期留学コース開講式の開催

4月4日、事務局大会議室にて、平成26年度前期熊本大学国際化推進センター日本語研修コース及び熊本大学短期留学コースの開講式が開催されました。

谷口学長は各コース新入留学生に対し、「日本人学生を含め多くの友人を作り、体調に気をつけて熊本での生活を楽しんでください」と暖かい祝辞を述べられました。

日本語研修コースには、ベトナム、パプアニューギニア、英国、ブルガリア、カーボヴェルデから5人の留学生が入学。短期留学コースには、中国から9人、台湾から2人、韓国から13人、フランスから1人の計25人が本コースに入学し、各留学生は熊本大学での学習に期待を寄せていました。



日本語研修コース開講式

アジアの大学生・大学院生が来訪

～日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）～



スラバヤ工科大学から参加した大学生

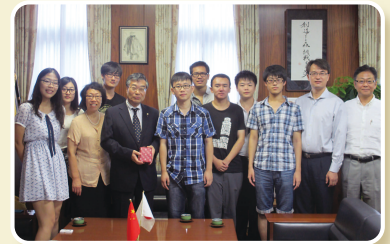
独立行政法人科学技術振興機構（JST）が企画する「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）」に応募し、本学からは6件のプログラム（第1次公募4件；第2次公募2件）が採択され

ました。本事業は、優秀なアジアの青少年を日本に招き、日本の青少年と科学技術の分野で交流を深め、日本の最先端の科学技術への関心を高め、将来、日本の大学・研究機関や企業が必要とする海外からの優秀な人材の育成に貢献することを目的としています。

本学では、中国やインドネシア、ラオス、ミャンマー、台湾から学部学生や大学院生、研究者64人を招き、本学の教育研究活動の紹介や研究者や学生との自由討議、博物館や企業の見学を通して、日本の科学技術に触れるプログラムを行います。

8月2日から1週間の予定で来学したスラバヤ工科大学（インドネシア）の学生らは、「次は留学生として熊本に戻ってきたい」「熊本は静かで快適」「阿蘇は雨だったけど楽しかった」などと感想を述べていました。

この経験をもとに、本事業の参加者の本学への留学に対する関心が高まることが期待されます。



山東大学の学生と谷口学長



P2レベル実験室で実習を受ける
ラオス保健科学大学の学生

平成25年度留学生実地見学旅行を実施

2月13日から14日にかけて、大分県（湯布院、宇佐神宮、新日鐵住金・大分製鉄所、別府市竹細工伝統産業会館）への熊本大学留学生実地見学旅行を実施しました。この一泊二日の見学旅行は、日本の歴史・文化・風土及び日本が持つテクノロジーをはじめとした日本の現在の科学技術などを実際に体験することによって学び、日本への理解を深めるプログラムを提供するとともに、留学生同士や日本人学生との交流の場を提供することを目的として、本学で学ぶ留学生を対象に毎年企画しています。平成25年度は、14カ国の留学生96人が参加し、プログラム運営を手伝うサポーターとして日本人学生5人が参加しました。今回の旅行中には九州では珍しく積もるほどの雪が降り、初めての雪に触れた南の国から来た留学生は、真っ白な雪化粧をした湯布院の町並みや宇佐神宮の姿に目をキラキラと輝かせ、彼らにとっても忘れがたい見学旅行となったようです。



真剣な表情で竹すず作りを体験

大学間・部局間交流協定(平成26年1月～6月)締結分

大学間/部局間		大学名	国・地域	学術/学生
大学間		アイルランガ大学 Airlangga University	インドネシア	学生
		カリフォルニア大学ロサンゼルス校 University of California, Los Angeles	アメリカ合衆国	学術
部局間	工学部 大学院自然科学研究科	キングモンクット工科大学ラックラバン校 工学部 King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang, Faculty of Engineering	タイ	学術/学生
	先進マグネシウム 国際研究センター	韓国材料科学研究所軽金属部門 Korea Institute of Materials Science, Light Metal Division	韓国	学術
	工学部 大学院自然科学研究科	ホーチミン市建築大学 Ho Chi Minh City University of Architecture	ベトナム	学生
	大学院生命科学研究所	ラオス保健科学大学 看護科学部 Faculty of Nursing Sciences, University of Health Sciences	ラオス	学術
	医学部附属病院 大学院生命科学研究所	国立成功大学病院 National Cheng Kung University Hospital	台湾	学術
	パルスパワー科学研究所	キルギス共和国国立科学アカデミー 化学及び 化学工学技術研究所 Institute of Chemistry and Chemical Technology (ICCT) of National Academy of Science of the Kyrgyz Republic	キルギス共和国	学術
	生命資源研究・支援センター	オーストラリア国立大学 オーストラリアフェノミクスファシリティ Australian Phenomics Facility, The Australian National University	オーストラリア連邦	学術
工学部 大学院自然科学研究科	クイーンズ大学 Queen's University at Kingston	カナダ	学術	

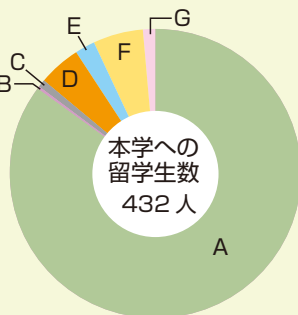
大学間交流協定校: 72件 部局間交流協定校: 88件 計160件 31カ国1地域(平成26年6月1日現在)

国際交流に関するデータ

外国人留学生数

(平成26年5月現在)

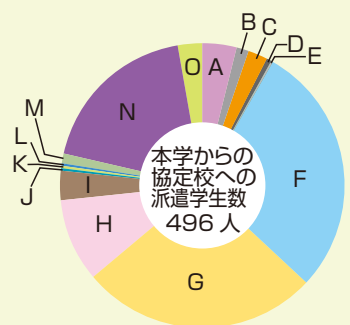
- A: アジア 368人
- B: 北アメリカ 1人
- C: 中南アメリカ 4人
- D: ヨーロッパ 20人
- E: 中近東 10人
- F: アフリカ 24人
- G: オセアニア 5人



本学からの協定校への派遣学生総数

(昭和52年度～平成25年度)

- A: 中国 20人
- B: 韓国 7人
- C: 台湾 11人
- D: ベトナム 2人
- E: インドネシア 1人
- F: アメリカ合衆国 143人
- G: イギリス 133人
- H: ドイツ 47人
- I: フランス 17人
- J: ポーランド 1人
- K: チェコ 2人
- L: スロベニア 1人
- M: トルコ 6人
- N: オーストラリア 92人
- O: ニューゼaland 13人

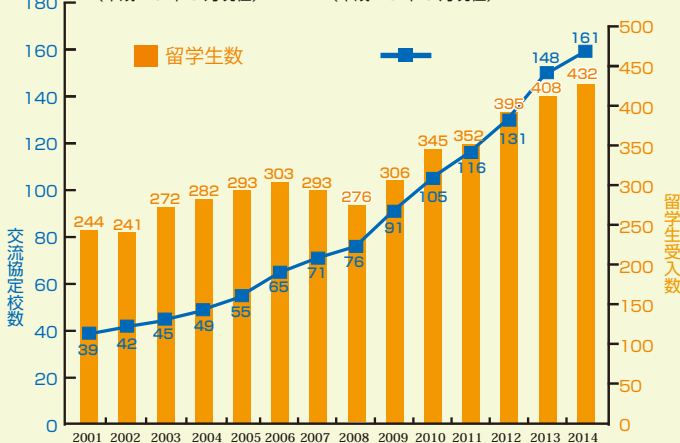


留学生受入数の推移

(平成26年5月現在)

交流協定校数

(平成26年5月現在)



本学教員の研究に伴う海外渡航数

(平成25年度)

- A: アジア 481人
- B: 北アメリカ 420人
- C: 中南アメリカ 17人
- D: ヨーロッパ 370人
- E: 中近東 21人
- F: アフリカ 8人
- G: オセアニア 39人

